

イトーヨーカドー  
環境への取り組み  
と  
環 境 監 査

1995年3月  
(株)イトーヨーカ堂  
環境開発プロジェクト

イトーヨーカドーの店舗は、お客様からいただく信頼を励みとして  
日々、営業させていただいております。

そして私たちは、環境問題への配慮につきましても、信頼される店でありたい  
と考えています。

お客様のご支援のもと、さまざまな取り組みを続けておりますが、その効果  
をチェックするために環境監査も行っております。

この小冊子は、こうした活動の、ささやかなとりまとめでございます。  
今年も私たちは地道に取り組みたいと考えておりますので、ご支援ご協力をお  
願いいたします。





■環境指針

■環境規約

- ①組織 実行と監査の体制
- ②実行計画 94年度までの優先項目
- ③具体的取り組み

I. 省資源について

- 1. 包装の簡素化
  - ①「簡易包装紙」の導入
  - ②「簡易包装箱」の導入
  - ③「衣料用ポリ袋」の導入
  - ④食品トレイの削減
  - ⑤オリジナルギフト商品の包装形態変更
- 2. お客様と一緒に行う省資源
  - ①スタンプカード方式の導入
  - ②「エコバック」の販売
- 3. 物流段階の省資源
  - A 店納品段ボールの削減
    - ①ハンガー納品
    - ②通い箱納品
  - Bハンガー廃棄の削減
    - ①ハンガーサイクル
- 4. 物流の合理化（車両削減）
  - ①共同配送
  - ②ロースタックトレイの採用
- 5. 省エネルギー
  - ①店照明の自動タイマー化
  - ②照明の電圧変更実験
  - ③空調温度の維持
  - ④節水ゴマの取り付け
  - ⑤事業所単位での取り組み

II. リサイクルについて

- 1. 事業活動に伴い発生する廃棄物の減量・リサイクル
  - ①空きビン・空きカンのリサイクル
  - ②発泡スチロール魚箱のリサイクル
  - ③発泡スチロールトレイのリサイクル
  - ④牛乳パックのリサイクル
  - ⑤地域が行うリサイクルへの協力
  - ⑥その他のリサイクル
  - ⑦再生紙の活用

III. 商品について

- ①海や川の汚れ防止につながる商品
- ②ゴミの軽量化につながる商品
- ③再生資源活用商品

IV. 社会活動

- ①地球規模の環境問題に対する貢献
- ②お客様への情報発信
- ③社員教育

④環境監査所見

# イトーヨーカードー環境指針

私たちイトーヨーカードーは、安全で良質な商品・サービスをお客様にお届けし、ご満足いただくことが第一の使命であると考えます。

同時に私たちを取り巻く環境問題についても、私たちにふさわしい責任を果たすことを目指します。

## 1. 事業活動に対する責任

私たちは企業活動の中で、環境保護、資源の有効利用・再資源化につとめ、私たちにふさわしい企業の責任を果たします。

## 2. お客様との協力と情報公開

私たちはお客様の声に耳を傾け、お客様と一緒に環境保護につとめるとともに、活動の結果を広くお客様や社員に情報公開します。

## 3. 地域社会との協力

私たちは地域とともに環境について考え、地域の活動に参加します。

## 4. 社会貢献

私たちは環境分野の社会貢献活動を継続的に行い、企業市民としての役割を果たします。

## 5. 社員の責任と自覚

私たち社員一人一人は、企業や社会の中でそれぞれの立場で環境問題について考え、自分の役割を自覚して行動するようつとめます。

# 環境規約

## 1. 事業活動における責任

『商品に対する環境面での責任』

### [第1条 環境面への安全性に配慮した生産・仕入れ]

商品の生産・仕入れに当たり、お取引先と協力しながら、その商品の品質の安全性とともに環境に対する安全性をも評価し、より環境負荷の少ない商品の生産・仕入れにつとめる。

### [第2条 環境に配慮した商品の提案]

お客様にご支持いただける環境に配慮した商品を販売し、環境を考えた生活を提案する。

『省資源、省エネルギー型事業活動への取り組み』

### [第3条 お客様に提供するサービス活動での省資源化]

お客様に提供する商品の包装や、販売・サービスの提供方法を見直し、簡易包装など資源の節約につとめる。

### [第4条 店舗施設の省エネルギー、業務の省資源化]

節電、節水をはじめとする省エネルギー型の店舗運営と、資源の節約につながる事業活動を推進し、省エネ、省資源につとめる。

『廃棄物の処理とリサイクルの推進』

### [第5条 廃棄物の責任ある処理・廃棄物の減量]

廃棄物は、その減量化のための計画を作るとともに最終処理まで責任を持って監視する。  
また資源となる廃棄物のリサイクルを計画的に進める。

### [第6条 リサイクルの推進・リサイクルシステムの開発]

効率のよい、効果的なリサイクルを実現するためリサイクルシステム、ルートを開発し、リサイクル社会の推進に寄与する。また事業活動の中でも再生品資材の使用につとめる。

『店舗内外の環境整備』

### [第7条 店舗・地域のクレンネス]

清潔で快適な生活環境作りのため、店舗および店舗まわりの清掃活動を推進する。

### [第8条 物流面における環境への配慮]

商品の流通過程でおきる環境負荷について、お取引先と協力し、その負荷を減少させるようつとめる。

## 2. 地域・お客様との協力、社会貢献

### [第9条 地域・お客様との協力]

地域やお客様と協力しあった社会貢献活動を実施する。

### [第10条 環境面の社会活動]

各社それぞれが決めた環境分野の社会活動を継続して実施する。

### [第11条 情報公開]

お客様に必要な呼びかけを行い、また取り組みの結果は、随時内外に報告する。

## 3. 社員の責任と自覚

### [第12条 社員教育活動]

社員の意識を高めるため、必要な社員教育活動を行なう。

## 4. 組織と環境監査

### [第13条 各社の組織と実行]

IYグループ各社は、環境規約をもとにした環境への取り組みを実行するため、各社に環境担当を置く。  
また取り組み行為・目標などは、各社、年度ごとに設定し実行する。

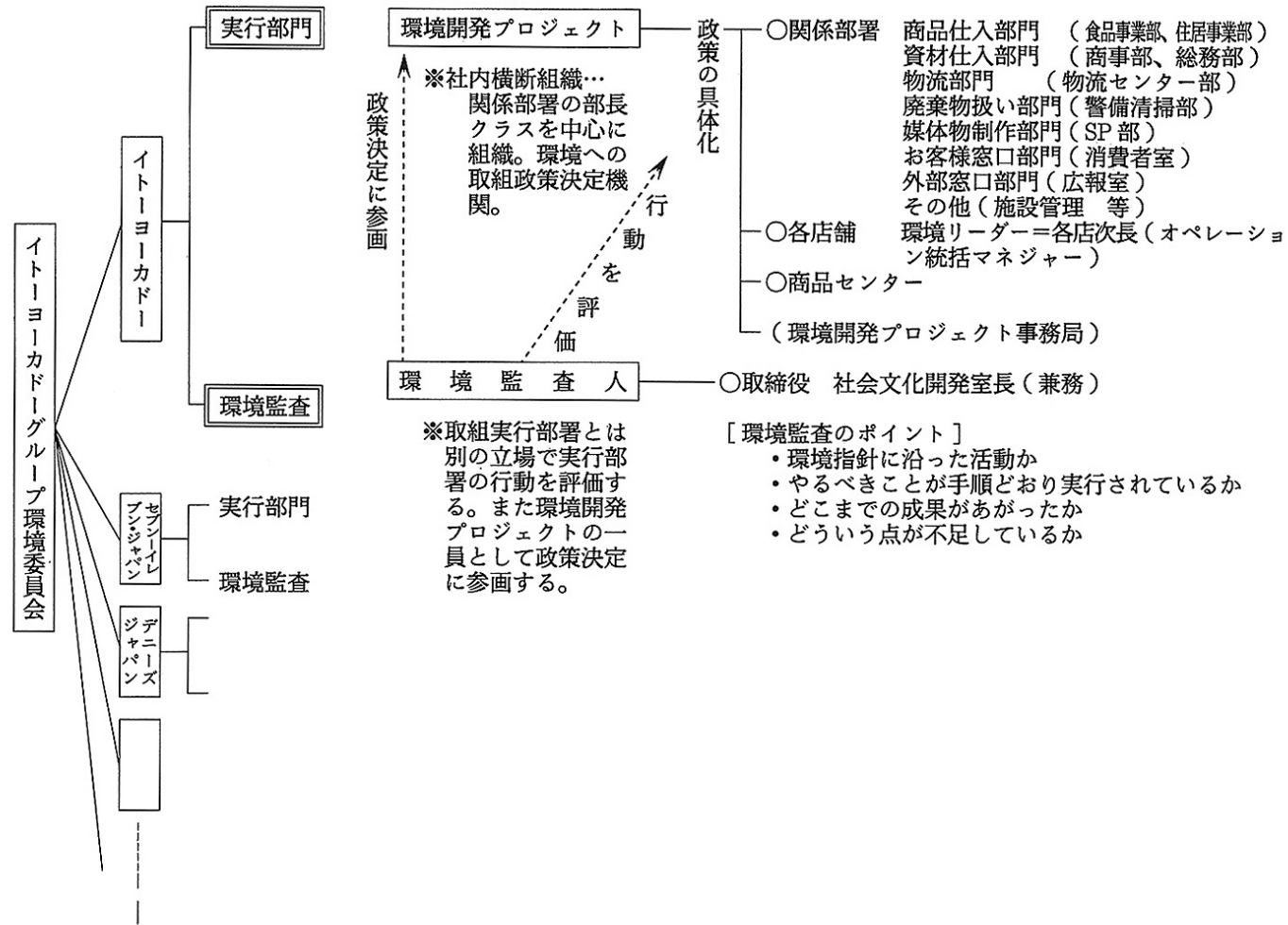
### [第14条 環境監査]

IYグループ各社は、各社ごとに環境監査人を置き、環境への取り組みの達成度を年1回環境監査する。

### [第15条 「IYグループ環境委員会」の設置]

環境への取り組みをグループとして進行させるためグループ横断の「IYグループ環境委員会」を組織する。

## 1. 実行と監査の体制



## 1. 省資源について

### 2. 94年度までの優先項目

#### ①量販店の環境問題=省資源、廃棄物減量

1. 商品仕入れ段階、商品輸送段階、販売段階での包装材削減
2. 店舗の事業活動で出るゴミの減量
3. 省エネルギー、物流の効率化

↓

[目標] 物流面、経済面からの評価も含め、トータルで社会的コストの削減につながる取り組みを行なう。

#### ②企業市民としての役割を果たす

1. 環境面の社会活動 (地球規模の環境問題への貢献)
2. お客様への情報発信
3. 社員教育



# 1. 包装の簡素化への取り組み

——商品の包装を簡易にして、包装紙の使用削減など省資源を目指す。——

## ①「簡易包装紙」の導入

開始：81年  
対象：中元、歳暮期などの配送商品  
変更前：完全包装の上に、更へのし紙。  
変更後：のし紙印刷済みの「簡易包装紙」を商品にかけて、二重包装を排除している。  
効果：全包装に比べ紙使用量は6分の1に削減。配送品の9割で実施している。

## ②「簡易包装箱」の導入

開始：91年  
対象：母の日、父の日等のプレゼント包装  
変更前：箱詰めした上で、全包装。  
変更後：図柄を印刷した「簡易包装箱」を使用し、二重包装の排除につとめている。  
効果：包装紙使用削減 73万枚/年（包装紙全体の7%）

## ③「衣料用ポリ袋」の導入

開始：94年5月実験スタート、94年8月全店拡大  
対象：レジで包装する衣料品  
変更前：紙袋+ポリエチレン製レジ袋の二重包装が多く発生。  
変更後：衣料専用ポリ袋を使用し、二重包装の排除につとめている。  
効果：紙袋使用削減 4,300万枚/年（紙袋全体の33%）

## ④食品トレイの削減

開始：91年  
対象：生鮮食品（青果、鮮魚、精肉、惣菜）のトレイ  
概要：i使わない努力をする。  
単品ごとにトレイが必要かどうかを検討。実験と検証を繰り返しながら、

削減につとめている。  
[成功例]  
青果…裸売り。容器をレジで回収する方式の導入  
干物…ポリ袋に変更  
ii使うべきものは過剰にならない範囲で使用する。  
色柄トレイの排除  
白トレイへの統一  
iii使ったトレイは回収に努力する。  
食品フロアに回収箱を設置  
お客様からのトレイを回収する。  
効果：売上点数の伸びに比べ、トレイの使用量は抑えられている。  
(トレイ類使用量の推移)

	トレイ使用量 ( )内前年比	売上点数の 前年比
91年	1,620トン (108%)	104%
92年	1,660トン (102%)	107%
93年	1,700トン (102%)	108%
94年	1,750トン (103%)	105%

## ⑤オリジナルギフト商品の包装形態変更

開始：91年  
対象：中元、歳暮のオリジナルギフト商品  
概要：包装形態を見直し、簡易包装に変更している。  
[例]  
「カニ缶詰合せ」…横並べから縦型へ  
「ハム詰合せ」…布引き削減 等

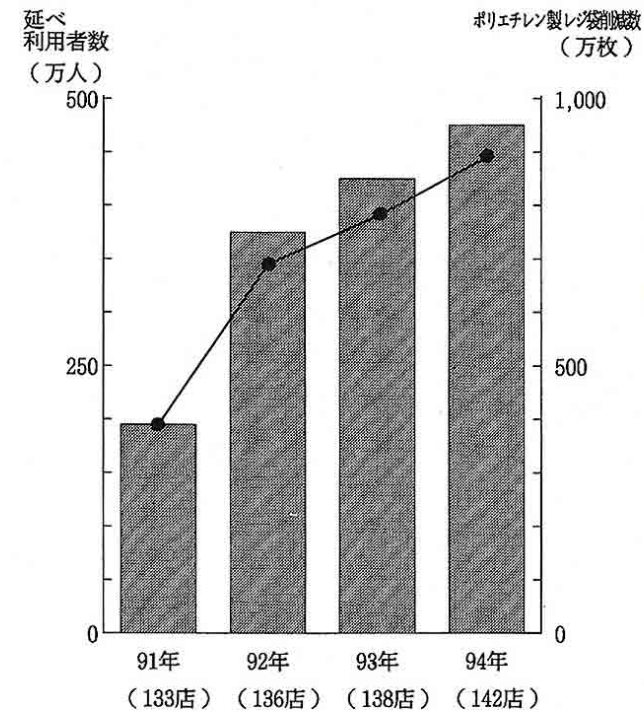
# 2. お客様と一緒にいる省資源

——お客様にお買い物袋のご持参をお願いし、食品フロアで使用するポリエチレン製レジ袋の使用を削減する。——

## ①スタンプカードの導入

開始：91年4月 食品扱いの全店実施  
概要：食品フロアでお買い上げの際、レジでポリエチレン製レジ袋ご辞退のお客様のスタンプカードにスタンプを1個押しスタンプ20個で100円と交換する。  
また同時に50円をイトヨーカドーがお客様に代わって「ITTO 国際熱帯木材機関」などへ寄付し、自然保護に使用する。  
効果：94年度  
延べ利用者 470万人  
ポリエチレン製レジ袋削減数 850万枚（レジ袋総使用数の2.9%）

スタンプカードの導入効果



## ②エコバックの販売

開始：91年4月 食品扱い店全店実施  
概略：「お買い物袋ご持参のお願い」の一環として、安価な買い物袋を販売する  
袋の特徴：  
・はっ水加工の傘生地でバックにたたくて携帯できる。  
・廃棄時に燃焼させても有害ガスの出ないポリエステルを使用





### 3. 物流段階の省資源

—— 物流段階で発生する包装材の使用を削減する。 ——

#### A. 店納品段ボールの削減

衣料で年間960万ケース（860t）の段ボール廃棄が発生していることに対して、納品形態の変更により、段ボールの使用を削減する。

##### ①ハンガー納品

開始：90年11月実験開始

（91年34店→92年55店→93年3月105店）  
93年10月全店へ拡大

対象：婦人、紳士の重衣料、ボトム

概要：ハンガーごと商品を納品することで、段ボールの使用を削減する。また作業効率を上げる。

今後は服種の拡大（子供衣料、衣料専門部門、リビングウェアへ拡大）を目指す。

効果：段ボール削減 180万ケース/年  
（衣料ダンボールの19%）

##### ②通い箱納品

開始：93年8月1社で実験開始

94年7月7社6店舗で実験開始

対象：婦人、肌着

概要：繰り返し使える通い箱形式を導入し、段ボールの使用を削減する。今後行う実験から通い箱の仕様を検討し、全店導入を目指す。

効果：段ボール削減 450万ケース/年  
（衣料ダンボールの48%）

#### B. ハンガー廃棄の削減

納品用ハンガーを中心に、年間2千万本（1,000トン）のハンガー廃棄が発生していることに対し、ハンガーを繰り返し使うことでその廃棄を減らす。

##### ①ハンガーサイクル

開始：92年9月紳士服対象に開始

94年5月服種拡大

対象：紳士服、婦人服、婦人ボトム

（95年より、婦人ブラウス、子供衣料予定）

概要：IY指定のハンガーをお取引先に戻して繰り返し使用することで、ハンガー廃棄を削減する。

今後は服種の拡大を目指す。

効果：ハンガー廃棄削減 1,500万本/年  
（ハンガー対象商品の75%）

### 4. 物流の合理化

—— 車両台数の削減など物流部門を合理化することで、社会的コストを削減し省エネルギーに貢献する。 ——

#### ①共同配送の実施

開始：81年プロジェクト開始

86年加工食品を対象に全店でスタート

対象：加工食品、肌着、日用品など

概要：店への車両台数を削減し、排気ガス公害、車過密を削減する。

・1週間1店舗、加工食品で

変更前：82台

↳ 35取引先+センターが、  
1つの取引先につき週2  
回以上納品していた。

変更後：28台に削減

↳ 毎日4台(ルート)に集約した。

・87年10月 肌着を加工食品の車に混載

・同年11月 日用品の共同配送開始

・現在も更に効率化のための方法を検討中

#### ②ロースタックトレイの採用

開始：94年

概要：生鮮食品用トレイについて、  
縁の傾斜を緩くして重ねてもかさばらな  
いトレイを採用し、配送時の積載率を向  
上させる。

効果：変更前体積：4tトラック週67台分

↓

変更後：週50台分へ

### 5. 省エネルギーへの対応

—— 省エネ設備の整備や店ごとの工夫により、節電・節水をはかる。 ——

#### ①店照明の自動タイマー化

開始：70年代から

概要：開店前照明を段階的に自動で行う。

品出し時 30%

10分前 70%

開店直前 100%

課題—変電室から遠い所で蛍光灯のち  
らつきが出ないか

（気温の低下でも変化起きる可能性）

効果—1店舗1ヵ月で2万kwhの削  
減（5%）

#### ③空調温度の維持

概要：夏期空調温度を26℃に維持

（中間期は外気冷房の実施）

#### ②照明の電圧変更

概要：省エネ、コスト削減のため、照明の電圧  
を下げる。

杉戸店、足利店の2店舗で実施し、問題  
が出ないか実験中。

#### ④節水ゴマの取り付け

概要：水道の蛇口に節水ゴマを取り付けて、水  
量を削減

効果：一店舗1ヵ月100t（5%）の水量削減



### ⑤各事務所で工夫

[厚木センターでの工夫…トート供給ラインの運転時間縮小]

- 提案箱を設け、社員から出た提案箱により実施
- 16:00~24:00の間に少量しか使わなくても動いていたトート供給ラインについて、使うトートの数をあらかじめ確保し、ラインを止めた。
- 1ヶ月3,000KW 削減

## II. リサイクルについて

# 1. 事業活動に伴い発生する廃棄物の減量・リサイクル

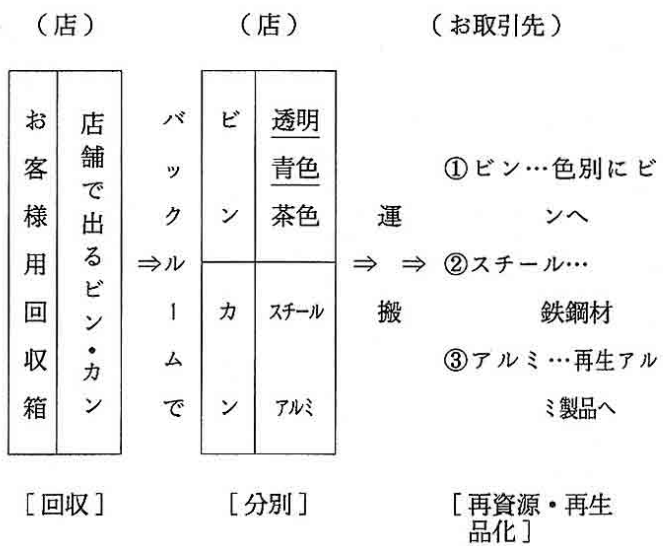
——資源となる廃棄物の回収と効果的なリサイクルにより、廃棄物の減量を目指す。——

## ①空きカン・空きビンのリサイクル

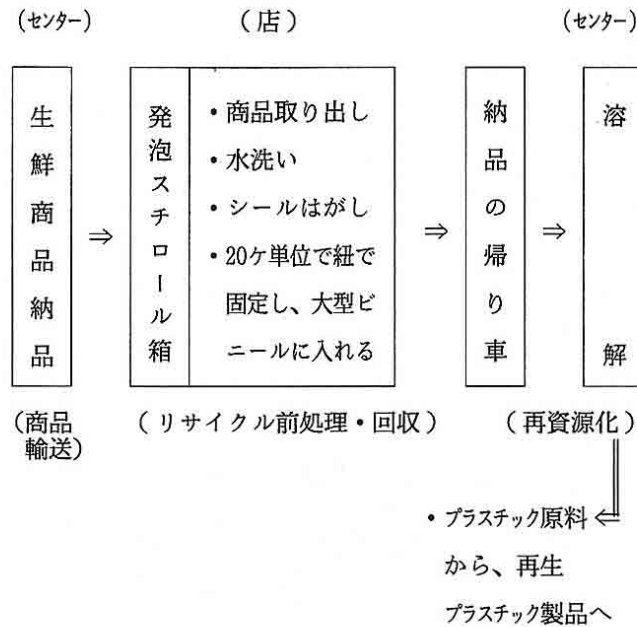
開始：91年4月

実施店：全店（151店舗）

概要：・店舗に回収箱を設置し、お客様からのビン・カンを回収する。  
・回収したビン・カンはバックルームで分別する。  
・適時お取引先に回収していただき再生する。



いただき、再生する。



## ③発泡スチロールトレイのリサイクル

開始：91年6月

実施店：122店舗

概要：・食品フロアにトレイ回収箱を設置してお客様からのトレイを回収する。  
・回収後は①業務用発泡スチロール魚箱と同じルート、②地域独自のルートのいずれかでリサイクルする。

## ④牛乳パックのリサイクル

開始：90年11月

実施店：34店舗

概要：・地域ボランティア団体などから協力要請があった場合、団体の実施する回収を、場所の提供、PR等でお手伝いする。

## ⑤地域が行うリサイクルへの協力

(横浜市のアルミ缶リサイクル事業への協力)

開始：93年7月

実施店：7店舗（横浜市内店）

概要：横浜市とアルミ缶リサイクル協会が主催する有償のアルミ缶回収に、回収拠点として協力する。

地域のリサイクルに協力し、リサイクル社会の確立に寄与することを目指す。

## ⑥その他のリサイクル

- ・業務用食用廃油、魚腸骨…飼料などへリサイクル
- ・電池…水銀電池、ニッカド電池の回収（電池売り場）
- ・段ボール

## ⑦再生紙の活用

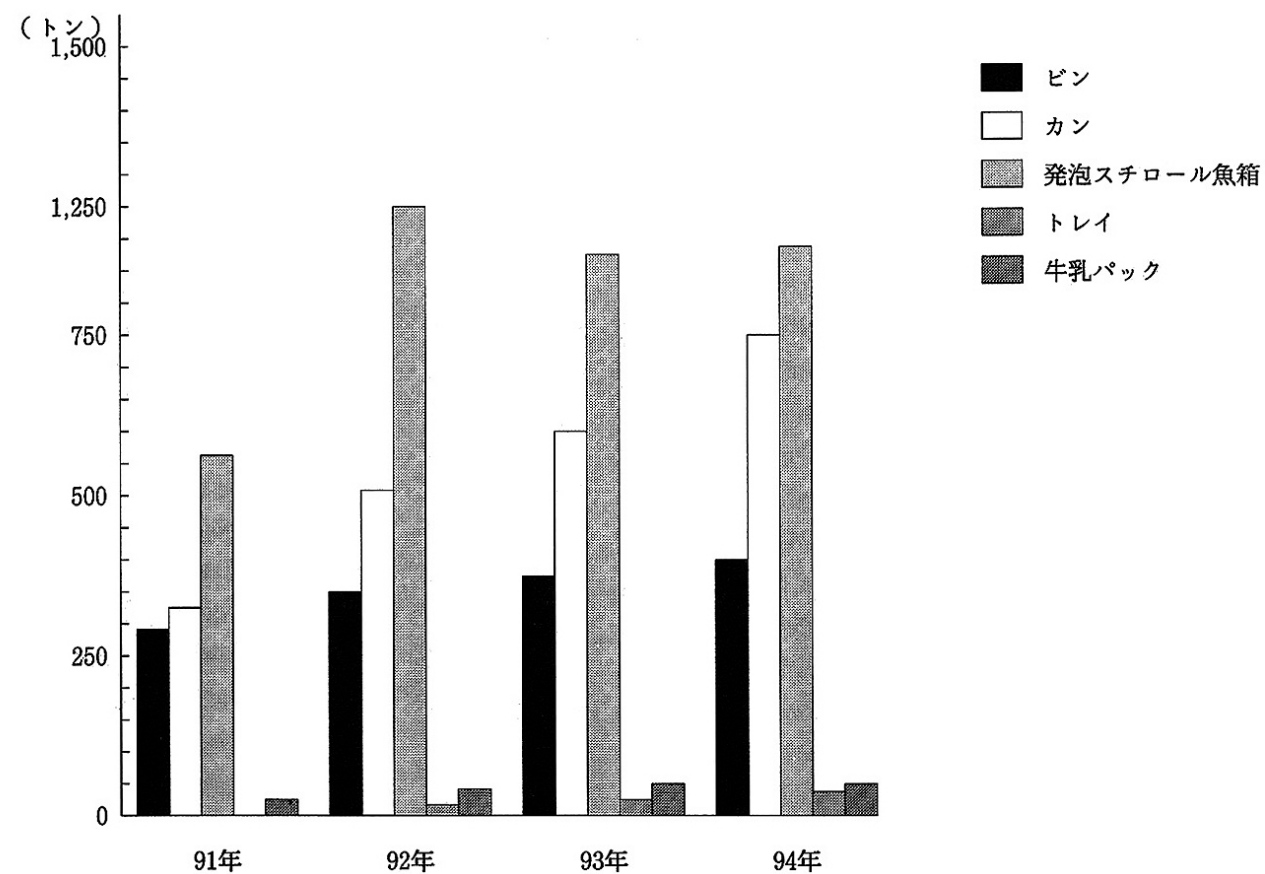
概要：リサイクル推進のため、資材分野に再生紙を導入している。  
レシート、トイレットペーパー、進物箱包装紙、紙製手提げ袋、チラシ等



○リサイクルの実績

	ビン	カン (スチール+アルミ)	発泡スチロール 魚箱・青果箱	発泡スチロール トレイ	牛乳パック
91年	290トン (360万本)	320トン (780万本)	565トン (230万箱)	魚箱に含む	28トン (84万枚)
	141店	141店	101店	113店	26店
92年	370トン (463万本)	502トン (1,254万本)	1,230トン (490万箱)	21トン (420万枚)	40トン 120万枚
	144店	144店	103店	115店	31店
93年	371トン (470万本)	600トン (1,500万本)	1,200トン (480万箱)	28トン (560万枚)	42トン 126万枚
	147店	147店	105店	118店	32店
94年	400トン (500万本)	760トン (1,900万本)	1,220トン 490万箱	38トン 760万枚	45トン 130万枚
	151店	151店	115店	122店	34店

Ⅲ. 商品について





——環境を考えた生活をお客様にご提案するため、環境負荷の削減につながる商品をエコ商品として扱う。——

## 商 品 例

### 1. 海や川の汚れ防止につながる商品

①せっけん	・オカモト やさしいせっけん1.5kg	980円
②水切袋	・ダスポン三角コーナー用(20枚)	158円
	・ミスターパック水切り(30枚)	120円
	・エアリーパック(15枚)	148円
	・三角コーナーいらす	498円
	・ヨーク排水用水切りネット(15枚)	198円
	・再生原料使用水切り袋(排水口用)	198円
	・ “ (三角コーナー用)	168円
③廃油処理用品	・オイルポイ	128円

### 2. ゴみの軽量化につながる商品

①詰め替え用品	・洗濯用液体石けん詰め替え用(500ml)	195円
---------	-----------------------	------

### 3. 再生資源活用商品

①古紙使用商品	・イトーヨーカドー ソフト4ロール(トイレットペーパー)	178円
	特徴：古紙100%	
	その内牛乳パックを30%使用	
	・イトーヨーカドー ソフト700枚(ちり紙)	198円
	特徴：古紙100%	
	・ミモザ12ロール(トイレットペーパー)	445円
	特徴：古紙100%	
	・コアレス6ロール(トイレットペーパー)	480円
	特徴：古紙100% 紙管なし	
②ペットボトル再生商品	・再生原料使用水切り袋(排水口用)	198円
	“ (三角コーナー用)	168円
	特徴：再生ペットボトル40%使用	
	・折り畳みカーペット	帖当たり800円
	特徴：再生ペットボトル90%使用	
再生アルミ商品	・イトーヨーカドー グリルパネル	448円
	特徴：再生アルミ80%使用	

## IV. 社会活動

## 1. 地球規模の環境問題に対する貢献

——国際的に活動している団体の支援を通じ、地球規模の環境保護に貢献する。——

### ①スタンプカードによる寄付

(お客様と一体となった社会貢献活動)

開始：91年

概要：・お客様のスタンプカード利用回数に応じた寄付

・食品レジでお買い上げの際、レジでポリエチレン製レジ袋ご辞退のお客様のスタンプカードにスタンプを1ヶ押し、スタンプ20個で100円をご返金する。

・同時に50円をイトーヨーカドーがお客様に代わって自然保護活動へ寄付する。(これまでにITTO「国際熱帯木材機関」などへ寄付し、熱帯林の再生事業に使用された)

・お客様へ省資源の取り組みと自然保護への貢献を一緒に働きかける。

### ②「木になるバック」販売

(お客様と一体となった社会貢献活動)

開始：94年

概要：「お買物袋ご持参のお願い」の一環で、300円のコットン製買い物袋を販売し、その売上の20%をITTOの森林再生事業に寄付する。

実績：94年 2,066枚販売  
124,000円寄付



実績：

	寄付額
91年	470万円
92年	928万円
93年	1,034万円
94年	1,176万円

### ○91年～94年までの環境分野の社会貢献

総計：1億6,727万円

- ・『地球サミット』支援
- ・公益信託「地球環境日本基金」への寄付
- ・ITTO(国際熱帯木材機関)の森林再生事業支援
- ・WWF Japan(世界自然保護基金日本委員会)の自然保護事業支援

などへ活動。

現在ペルー・アマゾン地域では、イトーヨーカドーの寄託した資金で、ITTOの指導のもと森林再生事業が行われている。

### 〔活動中のペルーアマゾン(リオハ地区)森林再生事業〕



## 2. お客様への情報発信

## 3. 社員教育

### ○環境を啓蒙するための活動

- ①お客様と一体となったリサイクルと・実績の報告
- ②エコ商品の品揃えと環境をアピールする媒体の設置
- ③取り組みのリーフレット配付
- ④地域との対話

○社員に対し、包装の簡素化やリサイクルルールの徹底を促す。また、広く環境に対する関心を深めるための活動を行う。

### ①クリーンバード活動

開始年：91年

概要：月1回の店周辺清掃活動。地域の環境を考えるひとつのきっかけ作り。

# 環境監査所見

■(株)イトーヨーカ堂の環境への取り組みを監査した結果、次のように評価します。

1. 業務の中に環境の視点を取り入れ、まじめに取り組んでいることは評価できる。
  2. 今年度整備した環境指針・環境規約とそれに基づいた行動により、ほぼ所期の効果をあげている。
  3. しかし環境問題における社会活動分野では、再度活動の整備をしなければならない。
  4. また進めている地道な取り組みについては、その成果をお客様にご報告する努力が不十分である。
- 以下、個々の項目について所見を述べます。

## I. 省資源

①お客様の立場に立った省資源として、お客様の手に渡る包装材の削減に取り組んでいる。

[事例]・簡易包装箱、簡易包装紙、衣料用レジ袋の導入  
・食品トレイ削減 ・ギフト商品の包装変更 等

②業務の中に環境の視点を取り入れ、省資源を進めている。

[事例]・店納品段ボールの削減(ハンガー納品、通い箱の導入等)  
・共同配送の実施  
・省エネルギーの推進 等

こうした2つの分野から多面的に取り組んでいることが評価できる。

量販店が省資源対策で成果を上げるためには、日常の業務を効率的な仕組みに変更するという行為が大切である。業務が効率的な仕組みに変更されれば、その成果として社会的コストが削減され、ゴミの減量、省エネにも寄与できる。

イトーヨーカドーでは今後ともこうした考え方のもと、実質的に効果のあがる活動を続けなければならない。

## II. リサイクル

①効率的な仕組みで、優先順位に従った活動を進めている。

持続的で効果的なリサイクルを行うためには、物流面、経済面から見ても合理性があり、かつゴミ減量、社会的コストの削減につながる仕組みが必要になる。  
また優先順位をつけて、ゴミ減量に大きく貢献できるところから活動しなければならない。  
こうした考え方のもとで活動している。

[事例]・合理的な仕組みが無いものを優先させるより、きちんとした仕組みでリサイクル出来、なおかつ業務のゴミとして大きな部分を占める発泡スチロール魚箱のリサイクルから優先している。



②再生品の用途は、効果的な資源として使用している。

[事例]・発泡スチロール魚箱、トレイ等は、無理な再生商品の開発につなげないで、建築資材や再生プラスチックの原料に使用することを選んでいる。

こうした活動からもわかる通り、明らかな理念に基づいて活動している点は評価できる。

但しお客様や地域と一体となって行っているリサイクル活動については、基本的な事柄（備品の管理やお客様への呼びかけ等）が徹底されていない店舗があり、再度徹底が必要である。

### Ⅲ. 商品

いわゆる「エコ商品」といってもお客様のご支持をいただけない商品は扱わず、お客様にご支持いただける商品の販売につとめている点は、価値ある商品の販売につとめるというイトーヨーカドーの基本に合致して評価できる。

ただし、お客様が売り場内で選択できるような媒体物の取り付け等、商品の意味をつたえる努力が必要である。

### Ⅳ. 社会活動

地球規模の社会貢献として、2団体の活動を支援する取り組みを行っているが、更なる社会貢献のため、お客様や社員を巻き込んだ活動が必要である。

またお客様と一体となって進めるリサイクルや省資源への取り組みについても店からのアピールが少なく、地域と共に環境を考えるためには、店からお客さまへの更なる情報発信が必要である。

以上、94年度の環境監査といたします。

1995年2月24日

(株)イトーヨーカ堂 環境監査人

水越さくえ

〒105  
東京都港区芝公園4-1-4  
(株)イトーヨーカ堂  
環境開発プロジェクト 事務局  
TEL 03-3459-2104 (ダイヤルイン)



